

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立吉島小学校	校長氏名	尼子 博崇	生徒指導主事氏名	西本 由美
-----	-----------	------	-------	----------	-------

**取組事例名 『ともだちさんかまつり』**

**取組のねらい『キーワード 関わり合う』**

- ・吉島小学校と広島南特別支援学校の児童，また地域の人たちとふれあい仲良くなることで，相手を思いやる心を育てる。
- ・お店の計画等を通して児童が主体的に活動できるようにする。
- ・集会にみんなで参加し，楽しさを分かち合う。

**取組の具体的内容『キーワード 満たされる』**

・児童会が主となり計画運営をしていく広島南特別支援学校との交流行事。開会式では，参加者全員が歌う「手話による歌」や2校の低学年が合同で取り組む「おみこし」で会を盛り上げる。その後「まつりの広場」で3年生から6年生は自分の学級のお店を開き，店番で自分の役割を果たしたり，お店を回ったりすることで自己存在感を感じたり，友だちと協力する楽しさを味わったりする。また，自分が開いたお店に参加してくれた人たちが喜び，楽しむ姿を見ることで自己肯定感を味わったり，相手の立場を考える思いやりが育ったりする。当日までの活動を通して自分が必要とされていることを実感し，児童の心が満たされる。



**取組の課題・創意工夫『キーワード 時間』**

・まつりの時期には、修学旅行や野外活動等が重なるため、十分な時間をとって準備することができない。また、児童会運営委員会が抱える仕事もたくさんあり、限られた時間の中で準備等を行っていくので、児童会運営委員がゆっくりアイデアを出し合い練り上げる機会が十分持てない。したがって教師主導で行いがちになることがある。

### 取組の成果（効果）『キーワード 主体性』

・児童が主体的にお店の運営にあたりたり、児童同士が相談・試行錯誤しながらやりたいものへと仕上げていったりする過程で、生き生きとした児童の姿が多く見られた。また、休みがちであった児童がまつりの計画や準備のために継続して登校し続けたり、不登校傾向の児童がまつりをきっかけに登校できたりしたことも大きな成果である。



### 今後の展開『キーワード 広がり』

・まつりを通して身についた「主体的に考え実行していく力」が他教科や生活の場面に広がっていくことが期待される。特別活動にとどまらず、普段の授業の中でも児童が思考を組み立てられるよう教師が意識して授業を構成していきたい。

### 他校へのアドバイス『キーワード 信じる』

・児童の力を信じて任せてみるのが1番であると考え。「できないだろう」と最初から決めつけ教師主導で進めていくと、児童は考えることをやめ指示通り動くだけになってしまう。失敗することも想定し、それを修正していくことができる時間を十分与えられるよう計画性を持って、児童を信じ任せてみるのが大切である。

「やっぱり、振り返るべきことは、南特別支援学校の事だと思います。その人たちに、耳が聞こえないので、自分自身はハンドサインを送って説明しました。OK？は丸をつく。て首をかしたり、三回落とすよはさしほうを三回下に持っていたりしました。じっさい、用意してなかったから、アドリブでした。店がいえいは何回もやってきましたが、こんな重大なやくはや。たことかないので、みんなうしなから、いい経験の一つです。」

「でも、とてもようこんでくれた人、たのしんでくれた人がいたのです。たてす。」

「いよいよ友達参加祭りが開催されました。最初、ぼくはお客さんが来てくれるか心配になりました。けれど、すぐにお客さんが来てくれました。なのでぼくはお客さんを喜ばせるために、いろいろな、いろいろな。来てくれたありがとうございます。と声をかけたり、質問を伝えたりするようにしました。そして、他人との押し方の仕方を学びました。この友達参加祭りで学んだ他人との押し方は、今後役に立つと思います。なので今のよいな時に、それを身につけたいと思います。」